

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

令和6年1月13日(土) 滋賀県立県民交流センター (ピアザ淡海)

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

ピアザホール 14:00~16:00

医師中村哲の 仕事・働く というここと

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真・映像提供◎ベシワール会/PM S

企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団

一般社団法人 日本社会連帯機構

製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の
仕事・働く
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。中村医師は言う「これは人間の仕事である」

「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」
上野千鶴子氏 (社会学者、東京大学名誉教授)



2024年1月13日(土)14:00~16:00 ★申し込み先着 400名

滋賀県立県民交流センター(ピアザ淡海)ピアザホール

申込QRコード

30分前より受付/開場 参加費:一般 1,000円(障がいのある方 500円、高校生以下無料)
全上映(47分)後 アフタートーク対談 「未来を担う子ども・若者の未来」
対談者: 藤田徹(本作品企画者) × 岩原勇氣氏(NPO 法人ブラフアート理事長)



****【申込方法】下記にご記入し FAX(077-599-4703)もしくはQRコード読み取りでお申込みください****

お名前・年代	()代
所属・団体等あれば記載下さい。	
電話・メール等	☎ メール @

QRコードを用いて読み取りの申込みができない方の申込みは・・・ FAX 077-599-4703

問い合わせ ☎ 077-599-4702 (ワーカーズコップ・センター事業団 滋賀事業本部まで)



主催: 一般社団法人 日本社会連帯機構 滋賀地方委員会
労働者協同組合 ワーカーズコップ・センター事業団 滋賀事業本部 しが協同労働ネット
共催: 一般社団法人 日本社会連帯機構
後援: 滋賀県 滋賀県市長会 町村会 滋賀県生活協同組合連合会 滋賀県社会福祉協議会